点検・評価の様式(手引版雛形)

政府統計コード	00450106	
基幹・一般の別(選択記入)	その他の一般統計調査	
調査の名称	労使関係総合調査(労使コミュニケーション調査)	
		重要な政策の立案・実施・評価の直接の根拠資料として利用
		国が給付する手当や給付金の算定根拠として利用
政府内における調査結果の利活用状況		月例経済報告に利用
※該当するものを選択(複数選択可)		基幹統計の作成に利用
		基幹統計以外の重要な統計の作成に利用
		その他
特記事項		

① 調査計画との整合性確保等の観点

	□ 1.調査の目的□ 2.調査対象の範囲 ※			
	☑ 3.報告者数等※	(報告を求める個人又は法人その他の団体(報告者)の数等)		
	□ 4.報告事項とその基準期日※	(報告を求める事項及びその基準となる期日又は期間)		
	☑ 5.報告の方法 ※	(報告を求めるために用いる方法		
調査計画との整合性 (整合している場合チェック)	☑ 6.報告を求める期間 ※		全項目整合	
(正日ので の場合)エフラブ	☑ 7.集計事項※			
	■ 8.結果の公表方法及び期日 ※	(調査結果の公表の方法及び期日)		
	☑ 9.使用する統計基準			
	☑ 10.調査票情報の保存	(調査票情報の保存期間及び保存責任者)		
	□ 11.立入検査	(基幹統計調査のみ)		

(注1)「※」を付している一般統計調査の点検項目については、調査事項の10%未満の変更等、承認を要しない「軽微な変更」の範囲や公表内容との整合性に留意して点検を実施

(注2) 不整合は生じていないものの、調査計画の改善を検討(予定)している事項がある場合はシート②で記載

② 統計の品質確保・向上を図るための統計作成プロセスの水準の段階的な向上の観点

業務マニュアル等の 整備・共有の状況 及び 実際の業務の実施状況 □ 課題なし

□ 課題あり、見直し・改善を実施(予定含む)

の確認等

☑ その他(例:課題精査中、課題はないが見直し・改善を実施(予定含む)等)

	見直し・改善の概要(自由記入)	見直し・改善の内容(左記の類型) (該当するものを選択、複数選択可能)	F	見直し・改善の対応方法・手段 (複数選択可能)	対応状況 (選択記入)
	業務マニュアルの整備について、令和5年度に実施した省内の業務マニュアルの点検結果を踏まえ、拡充が必要な業務マニュアルの洗い出しを行った。今後、次回調査(令和11年実施予定)までに業務マニュアルの拡充を行う。	調査計画の見直し・改善 業務マニュアル等の整備・充実・改善		調査計画の変更申請 調査計画の軽微変更	
		品質の表示	0	業務マニュアルの整備・充実	
		変更管理の実施		実施方法の見直し	
記入欄		遅延調査票への対応		その他	対応中/対応予
No. 1		外部委託先からの意見や改善提案の聴取			定
		DXの実施、データのデジタル化			
		システムの要件・仕様の可視化			
		プロセス診断結果の取り込み			
		その他プロセスの段階的な向上に向けた取組			

③ 必要な精度の確保・向上の観点

	目安としている指標の設定状況			目安としている指標の具体的推移 (自由記入。別紙も可)		
	精度管理の目安と している指標区分 ※該当するものを 選択(複数選択可)	目安としている指標の具体的な 設定内容·考え方等 (自由記入。別紙も可)	目安としている 指標の設定時期 (自由記入)	今回調査 (又は前回調査)	前回調査 (又は前々回調査)	前々回調査 (又は3回前の調査)
1 調査の実施目的を確保するため の精度管理の実施状況	O (C/%/16/X	■事業所調査 回収率65%を仮定し、産業、労働組合員数	平成26年		(平成26年調査) ■事業所調査 有効回答数 58.6%	
	回収率・回答率	規模別に特定の属性を持つ労働組合の割合について、標準誤差が6%以内。 ■労働者調査 回収率60%を仮定し、産業、労働組合員数				
	カバレッジ				有効回答数 54.4%	1%
	ての他	規模別に特定の属性を持つ労働組合の割合 について、標準誤差が9%以内。			達成精度 別紙2のとおり	
	設定なし					

(令和元年調査) 達成精度結果

事業所調査

术 /八		
産業	推計値	標準誤差
连	(%)	(%ポイント)
調査産業	計 51.7	1.5
鉱業,採石業,砂利採取	業 43.8	4. 4
建 設	業 49.7	4.0
製造	業 54.2	4. 1
電気・ガス・熱供給・水道	業 22.8	3. 3
情 報 通 信	業 57.9	5. 7
運輸業,郵便	業 49.8	4. 5
卸 売 業 , 小 売 業	業 50.2	4. 7
金融業,保険	業 31.0	4.4
不動産・物品賃貸	業 54.9	6.8
学術研究、専門・技術サービス	業 50.6	5. 6
宿泊業、飲食サービス	業 49.2	5.8
生活関連サービス業,娯楽	業 54.0	5. 2
教育,学習支援	業 55.9	4.0
医療,福	生 53.6	3.9
複合サービス事	業 50.7	3. 5
サービス業(他に分類されないもの	57.8	4. 1

[※]事業所規模 30 人以上

労働者調査

立 来	推計値	標準誤差
産業	(%)	(%ポイント)
調査産業計	44. 3	2.0
鉱業,採石業,砂利採取業	44. 5	2. 6
建 設 業	41. 3	4. 1
製 造 業	44. 7	7. 1
電気・ガス・熱供給・水道業	44. 7	4. 6
情 報 通 信 業	48. 1	3.6
運輸業,郵便業	45. 0	3.5
卸 売 業 , 小 売 業	50.8	4. 6
金融業,保険業	42.0	5. 9
不 動 産 · 物 品 賃 貸 業	45. 9	4. 9
学術研究,専門・技術サービス業	42. 4	2. 0
宿泊業、飲食サービス業	29. 9	4. 9
生活関連サービス業,娯楽業	28. 6	3.6
教育,学習支援業	35. 5	1.9
医療, 福祉	44. 3	5. 2
複合サービス事業	39. 3	2. 6
サービス業(他に分類されないもの)	39. 2	2. 1

※事業所規模 30 人以上

(平成 26 年調査) 達成精度結果

事業所調査

産業	推計値	標準誤差
産業	(%)	(%ポイント)
調査産業計	54. 0	1.4
鉱業,採石業,砂利採取業	47. 9	5. 6
建 設 業	58. 9	4. 2
製 造 業	58. 3	3. 3
電気・ガス・熱供給・水道業	21.8	2. 6
情 報 通 信 業	64. 8	4. 2
運輸業,郵便業	56. 2	4. 1
卸 売 業 , 小 売 業	48. 7	4. 2
金融業,保険業	24. 7	4. 3
不 動 産 · 物 品 賃 貸 業	56. 7	4. 3
学術研究、専門・技術サービス業	58. 9	4.0
宿泊業、飲食サービス業	46. 8	4. 7
生活関連サービス業、娯楽業	61. 9	5. 5
教育, 学習支援業	52. 7	4. 7
医療,福祉	61. 9	3. 7
複合サービス事業	50. 7	5. 0
サービス業(他に分類されないもの)	51. 1	3.8

[※]事業所規模 30 人以上

労働者調査

立 **	推計値	標準誤差
産業	(%)	(%ポイント)
調査産業計	41.8	1.8
鉱業,採石業,砂利採取業	48. 2	6. 3
建 設 業	43. 1	4.6
製 造 業	31.9	4. 5
電気・ガス・熱供給・水道業	43. 6	4. 5
情 報 通 信 業	50.8	6. 2
運輸業,郵便業	46. 6	5. 0
卸 売 業 , 小 売 業	42. 3	5.8
金融業,保険業	42.5	5. 0
不動産・物品賃貸業	52.0	6. 9
学術研究、専門・技術サービス業	38. 9	4. 9
宿泊業、飲食サービス業	37. 5	7. 2
生活関連サービス業, 娯楽業	47.8	7. 5
教育,学習支援業	32.0	5. 1
医療, 福祉	52. 2	4. 5
複合サービス事業	43. 0	4. 9
サービス業(他に分類されないもの)	44. 3	4.9

※事業所規模 30 人以上